■　企画展「彦根製糸場　―近代化の先駆け―」展示リスト　■

No.	指定	名称	年代	所蔵	数量	内容
1　彦根製糸場の設立・目的						
設立						
1		遠城謙道伝　完（おんじょうけんどうでん かん）	明治35年(1902年)4月26日	彦根城博物館	1冊	富岡製糸場で工女として働いた人物の一人として、遠城繁子を紹介
2	＊	製糸器械所設立嘆願書（せいしきかいじょせつりつたんがんしょ）	明治9年(1876年)4月19日	滋賀県県政史料室	1冊	旧彦根藩士らによる滋賀県への製糸器械所の設立の願書
井伊家への払い下げ						
3		彦根製糸所御払下ノ儀ニ付願（ひこねせいしじょおはらいさげのぎにつきねがい）	明治19年(1886年)	彦根城博物館	1冊	彦根製糸場の井伊家への払い下げの願い
4		蚕糸事業奨励資本金拝借ノ儀ニ付願（さんしじぎょうしょうれいしほんきんはいしゃくのぎにつきねがい）	明治19年(1886年)	彦根城博物館	1通	井伊家が、彦根製糸場払い下げと同時に願い出た、拝借金の願書
2　彦根製糸場の姿						
5	＊	製糸場用地買上ケ之儀ニ付上申（せいしじょうようちかいあげのぎにつきじょうしん）	明治10年(1877年)11月15日	滋賀県県政史料室	1冊	滋賀県が彦根製糸場の用地を買い入れることについて内務卿に許可を求める上申書
6		元彦根製糸場平面図（もとひこねせいしばへいめんず）	明治44年(1911年)7月	彦根城博物館	1枚	彦根製糸場の平面絵図面
7		彦根製糸場古写真（表門）（ひこねせいしばこしゃしん(おもてもん)）	明治時代	彦根城博物館	1枚	彦根製糸場の古写真
8		彦根製糸場古写真（遠景）（ひこねせいしばこしゃしん(えんけい)）	明治時代	彦根城博物館	1枚	彦根製糸場の古写真
9		彦根製糸場古写真（工女集合）（ひこねせいしばこしゃしん(こうじょしゅうごう)）	明治時代	彦根城博物館	1枚	彦根製糸場の古写真
3　製糸の工程						
繭をあつめる						
10		中居忠蔵書簡　湯本源蔵宛（なかいちゅうぞうしょかん ゆもとげんぞうあて）	明治25年(1892年)6月7日	彦根城博物館	1通	彦根の中居忠蔵から出張中の湯本源蔵に、繭の買い入れについて連絡・指示する
11		乾燥用台車の図（かんそうようだいしゃのず）	明治時代	彦根城博物館	1枚	集めた繭を長期保存のために乾燥させる乾燥室で使用する台車と思われる図面
12		乾燥室正面・側面色彩図面（かんそうしつしょうめん･そくめんしきさいずめん）	明治時代	彦根城博物館	1枚	集めた繭を長期保存のため乾燥させる乾燥室の図面
糸を取り出す						
13		製糸用繭取鍋（せいしようまゆとりなべ）	明治～昭和初期	愛知大学中部地方産業研究所	1個	繭から糸を繰り取る際に、繭を煮る鍋。繰糸器の一部にあたる
14		索緒箒（さくちょぼうき）	昭和時代	豊橋市美術博物館	1本	煮熟した繭から、糸口を引き出す道具
15		奥田要助書簡　彦根製糸場宛（おくだようすけしょかん ひこねせいしばあて）	明治25年(1892年)8月4日	彦根城博物館	1通	奥田要助(信楽糸取鍋合名会社社長)による煮繭鍋の売り込み
16		信楽糸取鍋合名会社年賀状（しがらきいととりなべごうめいがいしゃねんがじょう）	明治30年(1897年)1月1日	彦根城博物館	1通	信楽糸取鍋合名会社の年賀状。ご使用の鍋に不行届があればご教示に預かりたい、と
17		検尺器（けんじゃくき）	明治時代以降	豊橋市美術博物館	1台	生糸の太さを測定するために、基準となる長さを測る道具
18		検位衡（けんいこう）	明治時代以降	豊橋市美術博物館	1台	生糸の太さを測定するために、基準の長さの生糸の重さを量る道具
19		デニール品位日々調査簿（でにーるひんいにちにちちょうさぼ）	明治32年(1899年)6月16～24日	彦根城博物館	18冊	工女ごとの毎日のデニール、品位の調査
生糸を売る						
20		褒賞（ほうしょう）	明治24年1月26日	彦根城博物館	1枚	滋賀県勧業協会物産会品評会、生糸優等賞
21		褒賞（ほうしょう）	明治25年3月15日	彦根城博物館	1枚	滋賀県犬上郡物産共進会、一等賞
22		彦根製糸場商標（ひこねせいしばしょうひょう）	明治時代	彦根城博物館	1枚	城の図柄の商標
23		彦根製糸場商標（ひこねせいしばしょうひょう）	明治時代	彦根城博物館	1枚	城の図柄の商標
24		彦根製糸場商標（ひこねせいしばしょうひょう）	明治時代	彦根城博物館	4枚	亀の図柄の商標
25		小野商店書簡　彦根製糸場宛（おのしょうてんしょかん ひこねせいしばあて）	明治28年(1895年)9月19日	彦根城博物館	1通	彦根製糸場に、「城印」の商標登録を勧める
26		繭・生糸標本(額入り)（まゆ･きいとひょうほん(がくいり)）	明治時代以降	豊橋市美術博物館	1枚	12種類の品種の繭、束装生糸、三龍社の商標を額に入れたもの
27		入庫斤量調書（にゅうこきんりょうちょうしょ）	明治27年(1894年)1月24日～明治29年(1896年)11月	彦根城博物館	17通	受け取った生糸の量の報告
28		小野商店書簡　彦根製糸場宛（おのしょうてんしょかん ひこねせいしばあて）	明治27年(1894年)5月31日	彦根城博物館	1通	横浜洋商館との生糸売込交渉報告
29		小野商店書簡　彦根製糸場宛（おのしょうてんしょかん ひこねせいしばあて）	明治33年(1900年)6月19日	彦根城博物館	1通	欧米の生糸市場についての報告
4　彦根製糸場で働く人びと						
組織						
30		彦根製糸場々員及工女人名書（ひこねせいしばじょういんおよびこうじょじんめいがき）	明治34年(1901年)5月	彦根城博物館	1冊	監督から工女までの職員名簿
31		場員服務規定（じょういんふくむきてい）	明治33年(1900年)8月	彦根城博物館	1冊	彦根製糸場の場員についての規定。現業係、原繭係、会計係、庶務係などの係があることが分かる
工女						
32		製糸場就業年期約定証綴（せいしばしゅうぎょうねんきやくじょうしょうつづり）	明治24年(1891年)7月30日	彦根城博物館	1綴	工女が就業する際に差し出す約定
33		就業日記（しゅうぎょうにっき）	明治30年(1897年)9月	彦根城博物館	6冊	各工女の日ごとの桝数の出来高の集計
34		一ヶ年工女出勤簿（いっかねんこうじょしゅっきんぼ）	明治34年(1901年)	彦根城博物館	1冊	工女の1年間の出勤状況をまとめた帳簿

No.	指定	名称	年代	所蔵	数量	内容
35		寄宿工女取締規則改正等関係文書綴（きしゅくこうじょとりしまりきそくかいせいとうかんけいぶんしょつづり）	明治33年(1900年)9月22日	彦根城博物館	1冊	工女の寄宿に関わる規則
36		回覧状（かいらんじょう）	明治35年(1902年)1月14日	彦根城博物館	1通	井伊直憲公薨去に伴い彦根製糸場休業を伝える回覧状
37		工女月給支払簿（こうじょげっきゅうしはらいぼ）	明治34年(1901年)6月	彦根城博物館	10冊	工女の月給の支払い記録
38		信認積立金預り通帳（しんにんつみたてきんあずかりつうちょう）	明治33年(1900年)6月	彦根城博物館	5冊	工女の積立金の記録
39		給与袋（きゅうよぶくろ）	明治時代	彦根城博物館	2袋	工女の月給を入れる封筒
5　近隣の製糸場						
近隣の製糸場との交流						
40		日野製糸会社伊藤捨吉書簡（ひのせいしがいしゃいとうすてきちしょかん）　彦根製糸場宛（ひこねせいしばあて）	明治31年(1898年)4月3日	彦根城博物館	1通	日野製糸会社社員守村利右吉の彦根製糸場見学を依頼する
41		彦根製糸場書簡（ひこねせいしばしょかん）　山中製糸所・塚本製糸場宛（やまなかせいしじょ・つかもとせいしじょうあて）	明治時代	彦根城博物館	1通	彦根製糸場に来ている河北製糸場の職員が、山中製糸所・塚本製糸場を見学できるよう、彦根製糸場から依頼している書簡
42		若林製糸場書簡（わかばやしせいしじょうしょかん）　中居忠蔵宛（なかいちゅうぞうあて）	明治29年(1896年)1月14日	彦根城博物館	1通	彦根製糸場と若林製糸場とのやりとり
若林製糸場						
43		明治三拾七年度分事業成績表（めいじさんじゅうななねんどぶんじぎょうせいせきひょう）	明治37年(1904年)	滋賀大学経済学部附属史料館	1枚	若林製糸場の製糸高、繭消費高、屑物製造高、工男数、工女数、工女賃金、燃料、糸売上の一覧表
44		若林音吉書簡（わかばやしおときちしょかん）　伊藤長次郎宛（いとうちょうじろうあて）	明治25年(1892年)9月13日	滋賀大学経済学部附属史料館	1通	若林音吉が伊藤長兵衛・長次郎に、業務拡張について書き送った手紙
45		製糸場指図（せいしじょうさしず）	明治25年(1892年)	滋賀大学経済学部附属史料館	1枚	業務拡張で増築しようとしている製糸場の図面
6　彦根製糸場の閉場						
46		明治三十三年度報告書（めいじさんじゅうさんねんどほうこくしょ）	明治34年(1901年)9月	彦根城博物館	1冊	明治33年度の営業報告書。損失を出した火災や工女の積立金の私的流用などについて記される
47		営業報告書明治三拾四年度（えいぎょうほうこくしょめいじさんじゅうよねんど）	明治34年(1901年)	彦根城博物館	1冊	明治34年度の営業報告書。閉場の顛末が記される

＊は滋賀県有形文化財(歴史資料)
※彦根城博物館所蔵資料は、すべて井伊家伝来近代文書です

作　品　解　説

1　製糸器械所設立嘆願書（作品リストNO.２）

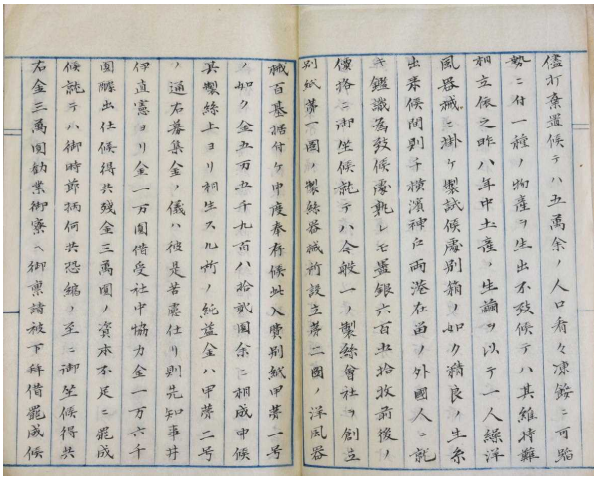
縦28.0cm　横20.2cm

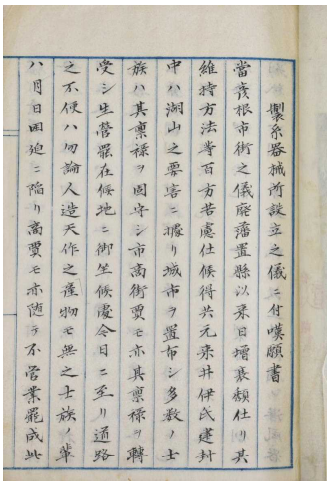
明治９年（1876年）４月19日

滋賀県県政史料室蔵

明治９年４月13日に、旧彦根藩士の武節貫治と磯崎芳樹が、滋賀県に提出した近代的な製糸工場の設立の願書です。ここでは、明治初期以来衰退している彦根市街の状況を述べた上で、「一種の物産を生出させなければ、(彦根市街の人びとの生計を)維持しがたい」とし、この打開策として器械製糸場の開設を提案しています。事前に生糸の試作、価格調査をし、必要経費の見積もりなども資料として付しており、準備を重ねてきた様子が窺えます。

明治10年、西南戦争が勃発した際、政府と対立した不平士族に呼応した動きが、旧彦根藩士の中にもあり、製糸場設立計画の関係者も怪しまれたため、彼らが器械製糸場を設立することはできませんでした。しかし、西南戦争後に、当初からこの設立計画に賛同していた滋賀県がこの計画を主導し、県営彦根製糸場が開場しました。





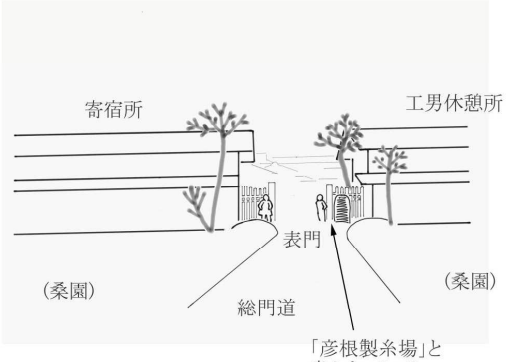
2　彦根製糸場古写真（表門）（作品リストNO．７）

縦23.0cm　横29.5cm

明治時代

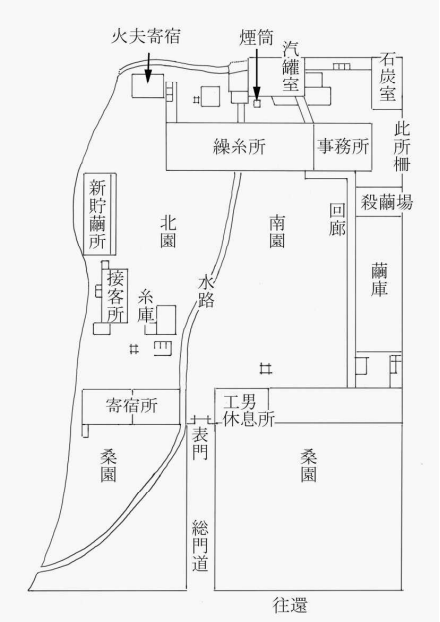
当館蔵（井伊家伝来近代文書）

彦根製糸場は、朝鮮人街道沿いで、平田川の左岸に位置する場所にありました(略地図参照)。この古写真は、朝鮮人街道から、彦根製糸場の表門を写したものです。彦根製糸場建物配置図とつきあわせてみると、向かって左側の建物が工女の寄宿所、右側の建物が工男休憩所だと分かります。その間が表門で、表門に向かって道が延びています。古写真実物でないと判然としませんが、表門の向かって右側の柱には「彦根製糸場」と書かれています。



写真概略図

略地図



彦根製糸場建物配置図

3　奥田要助書簡　彦根製糸場宛（作品リストNO.15）

縦23.1cm　横30.9cm

明治25年（1892年）８月４日

当館蔵（井伊家伝来近代文書）

製糸用繭取鍋（作品リストNO.13）

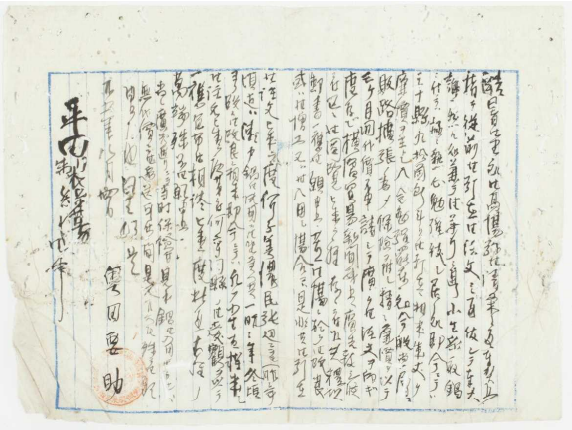
最大径25.0cm　高さ17.0cm

明治～昭和初期

愛知大学中部地方産業研究所蔵

繰糸器に備わっている繭を煮る鍋(煮繭鍋)の売り込み状です。明治20年設立の信楽糸取鍋合名会社社長の奥田要助が送ったもので、従前からの引き合い、注文に感謝する旨を述べてることから、彦根製糸場で同社製品が用いられていたことが分かります。この売り込み状では、煮繭鍋について熱心に研究していること、今では美濃・尾張辺りでも取り引きがあることを述べて、さらなる贔屓を頼んでいます。彦根製糸場が開場する前年の明治10年に、滋賀県から、信楽焼の生産者へ鍋の製造が命じられた時には、製造には苦労していたようですが、明治20年になると、煮繭鍋の需要に対応した会社が設立されるまで至っています。

彦根製糸場で使われていた煮繭鍋の現物は残されていませんが、信楽糸取鍋合名会社製の煮繭鍋は、現存しているものがあります。



奥田要助書簡　彦根製糸場宛（作品リストNO.15）

製糸用繭取鍋（作品リストNO.13）

4　彦根製糸場商標（作品リストNO.23）

縦14.5cm　横50.8cm（台紙の大きさ）

明治時代

当館蔵（井伊家伝来近代文書）

彦根製糸場商標（作品リストNO.24）

縦12.0cm　横64.8cm（台紙の大きさ）

明治時代

当館蔵（井伊家伝来近代文書）

彦根製糸場商標（作品リストNO.23）

生糸が出荷される際には、生産者を示す商標が付けられました。商標とは、他者の製品と区別するためのもので、生産者がそれぞれ、図柄を入れた独自のデザインを用いていました。彦根製糸場では、城や亀の絵を用いた商標を使っています。城は彦根城を意識していると思われますが、実際の彦根城では見ることがでいない建造物の配置です。左右に細長い台紙で生糸を巻いていたことが推測されます。生産者が付けた商標の多くは、横浜で輸出用に荷造りされる過程で剥がされ、輸出商の商標に換えられてしまいました。

ローマ字で「HIKONE SEISHI BA」と表記されており、彦根製糸場が「ひこねせいしば」という読みであったことが分かります。

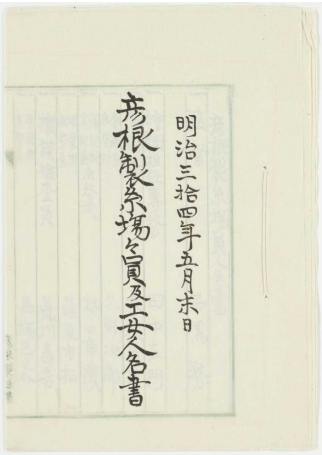
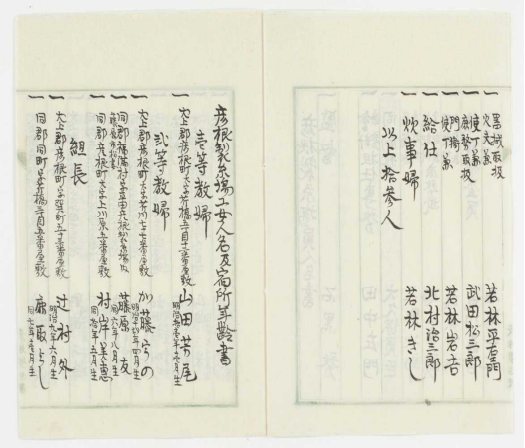
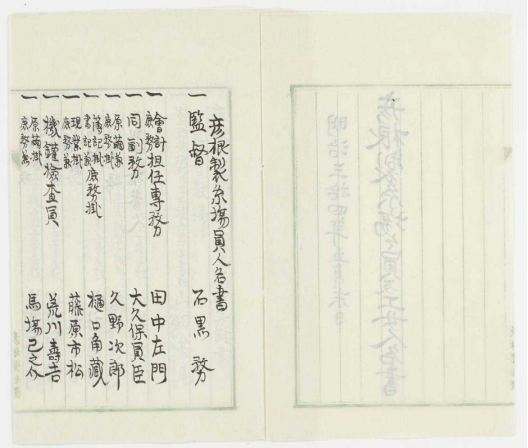
彦根製糸場商標（作品リストNO.24）

5　彦根製糸場々員及工女人名書（ひこねせいしばじょういんおよびこうじょじんめいがき）　（作品リストNO.30）

縦25.0cm　横17.7cm

明治34年（1901年）５月

当館蔵（井伊家伝来近代文書）



明治34年５月末時点の、彦根製糸場の場員と工女の名前を書き上げたものです。監督の石黒努、会計・庶務担任の田中左門と大久保員臣を筆頭に、計13名がその職名とともに書き上げられています。工女は12歳から31歳までの97名が記されています。12歳から21歳までで74名を数え、この年齢層が主体であったことが分かります。また、工女の中でも優秀な人は指導役にまわり、この名簿にも教婦などの役名付きの工女が７名います。彼女らは皆22歳以上であり、比較的年長者だったことが分かります。出身地は彦根製糸場の近隣の者が多数を占め、遠方の者はごく少数です。